

科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	氏 名
経済統計	選	後	4	2	河田 正樹

【テーマ】

データでみる日本経済

【目的と概要】

新聞紙上では、完全失業率、消費者物価指数、景気動向指数、国内総生産(GDP)などといった経済データが連日のように記事となっている。これら経済データは日本経済、ひいては世界経済を見るための指標となるばかりでなく、ミクロ経済理論、マクロ経済理論をはじめとするさまざまな経済理論と現実経済との整合性を検証するためにも用いられる。

この講義では、経済の諸現象を数量的に表わした統計データについて、それらがどのようにして作成されたものであり、どのような分析が行えるかについて学ぶことを目的としている。

【講義内容】

具体的な内容としては次のようなものを考えている。

1. 日本の統計制度
2. 全数調査と標本調査
3. 人口に関する統計
4. 労働に関する統計
5. 家計に関する統計
6. 物価指数
7. 時系列データの分解
8. 景気指標
9. 国民経済計算

まず、日本の統計がどのような調査体系で得られているのかを簡単に触れた上で、人口・労働・家計に関する個別の統計がどのように得られているのかを、近年のデータを示しながら説明する。

次に、複数の統計データを組み合わせることによって得られる指数の作成方法、その見方を説明する。

最後に、日本経済をマクロ的に記述する国民経済計算について説明する。

なお、統計学についての基礎知識は必要に応じて補足する。

【受講上の留意点】

出席の有無、評価の方法については初回の講義で指示しますので、履修を考えている学生は、初回の講義には必ず出席するようにしてください。

講義に関する情報は、講義用 HP(<http://www2.tokuyama-u.ac.jp/kawada>)に順次掲載していきますので、こちらも参照してください。

【ひと言】

経済統計は経済状態をうつす鏡です。経済統計のクセを知ることによって、経済状態を正しく認識してください。

【使用テキスト】

<参考書>

佐竹 元一郎 編著『経済の統計分析』中央経済社 3,150 円

中村 隆英 ほか『経済統計入門(第2版)』東京大学出版会 3,045 円